

# 水稲の病害虫防除と渇水対策

〈大川地区〉

大川地区版 令和7年7月  
東讃農業改良普及センター  
東讃農業改良普及協議会

**【必須防除1】** いもち病・紋枯病・カメムシ類、ウンカ類を対象に**必須防除1**を徹底しましょう。

【出穂期までに実施する必須防除例（いずれか使用）】

必須防除	防除時期		対象病害虫	使用薬剤	10a当たり希釈 倍数・散布量		
	い ず れ か	出穂20～15日前 (収穫45日前まで/1回)		いもち病、紋枯病、稲こうじ病、ウンカ類、カメムシ類	ゴウケツモンスター粒剤	3kg	
		混 用	出穂直前～出穂期(収穫14 日前まで/2回以内)		いもち病、紋枯病	ダブルカットフロアブル	1000倍/100ℓ
			出穂直前～出穂期(収穫7 日前まで/3回以内)		カメムシ類、ウンカ類	スタークル顆粒水溶剤	2000倍/100ℓ

※必須防除として上記以外にワイドバンチ豆つぶ250g/10a（防除時期：出穂10日前）が記載されていますので、使用の場合はしおりをご確認ください。

**【必須防除2】** カメムシ類を対象に**必須防除2**を徹底しましょう。特に「**イネカメムシ**」が大川地区で多く発生しており、出穂期に籾の基部を吸汁されると、不稔籾となり**減収する恐れ**があります。



イネカメムシ



ミナミアオカメムシ

【カメムシ類の防除薬剤】

必須防除	防除時期		使用薬剤及び10a当たり散布量	使用時期
	い ず れ か	出穂7～10日後	スタークル豆つぶ250g	収穫7日前まで/3回以内
			スタークル粒剤3kg	
出穂10～14日後	スタークル顆粒水溶剤 2000倍/100ℓ			

**【渇水対策:水稲節水栽培基準】** 梅雨時期の降雨が少なく農業用水の不足が不足した場合は、生育ステージ別に用水の必要度に応じて、節水栽培の目安表を基に最低必要量を供給するようにしましょう。

生育ステージ	必要度	コシヒカリ		あきさかり	ヒノヒカリ	※土壌水分(限度) 入水する目安
		(4/25)植	(5/20)植	(6/15)植	(6/20)植	
田植期						
活着期	◎	4/25	5/20	6/15	6/25	活着するまで湛水状態とする
有効分けつ期	△	5/1	5/25	6/25	6/30	黒乾きまで
無効分けつ期	▲	5/30	6/19	7/15	7/20	白乾きまで
幼穂形成期	◎	6/21	7/5	7/20	8/5	黒湿りまで(手で握って土だんご ができる状態)
穂ばらみ期	◎	7/1	7/15	7/30	8/15	
出穂開花期	◎	7/15	7/30	8/14	8/30	
登熟前期	○	7/20	8/4	8/19	9/4	同上
登熟後期	△	8/5	8/15	9/8	9/24	黒乾きまで
落水期	—	8/10	8/25	9/15	10/5	

注1) 用水の必要度  
◎：大、○：中、△：少、  
▲：微、—：不用を示す。

注2) ※土壌水分は、水稲の生育収量に大きな影響を与えない範囲の最低の土壌水分であり、この状態に達したら灌水する。